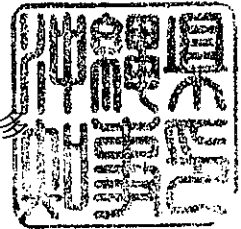




沖土道第 10298 号
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長
金 井 道 夫 殿

沖縄県知事
仲井眞 弘多



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成 20 年 9 月 19 日付国道企第 37 号にてご依頼のありました標記の件につきまして、別添様式①～④のとおり意見・提案を提出いたします。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

1. 道路整備の財源確保について

沖縄県は、戦後の米軍統治を経て、モータリゼーションの急速な進展に伴い精力的に道路整備を進めてきたが、道路網の骨格軸となる那覇空港自動車道をはじめ、多くの路線が未だ整備途上にある。また、米軍基地再編計画に伴い、嘉手納基地より南側の米軍施設用地の返還も予定されており、返還跡地においても多くの幹線道路の整備が必要とされている。

道路網の充実強化は本県の自立的発展の基礎条件であり、道路整備に必要な財源が確保される制度の確立を要望する。

2. 内閣府の一括計上予算・高率補助を堅持した上で、自由度の高い道路予算一括交付金への移行

現行の国庫補助制度は、道路種別・事業種別ごとに、改築、特殊改良、災害防除、共同溝、交付金等の補助事業メニューがあり、それぞれ国庫補助率と県負担率が適用されているが、これらの事業区分・補助率を見直し、自由度の高い道路予算一括交付金としてもらいたい。

特に、以下の3項目については、現行の補助制度では県の対応が困難であり、これらの3項目も道路予算一括交付金の中で処理できるよう要望する。

・道路の維持管理について

道路植栽の剪定管理や道路照明電力使用料など、安全快適な道路空間の維持管理に必要な単独財源が不足している。

今後とも増加する道路ストックの適切な維持管理に対応した一括交付金制度の確立を要望する。

・電線類の地中化について

本県のリーディング産業である観光産業を支える道路景観の創出及び、台風常襲地帯としてライフラインの確保を図るため電線類地中化を推進しているが、地中化事業の国庫補助率が低いことや電線管理者の負担が大きいと、整備の進捗が悪い。

電線類地中化の促進に必要な高率補助を確保し、電線管理者の負担軽減に対応した一括交付金制度の確立を要望する。

・増加する橋梁補修・架け替えについて

沖縄では昭和47年の本土復帰以降、社会資本の整備が進められ、多くの橋梁が建設された。しかし、年月の経過とともに塩害等により劣化が進み、今後、橋梁の維持補修、更新費用の増加に対応した一括交付金制度の確立を要望する。

3. 道路事業の評価手法等について

現行の道路事業の事前評価手法は、走行時間の短縮や走行経費の減少等の多寡で判定しており、交通量の少ない地方部にとっては不利である。

沖縄県は離島県であり、均衡ある道路整備が可能な評価手法の確立を要望する。

4. 直轄国道の委譲について

直轄国道の委譲については、日本復帰以降の沖縄県と沖縄総合事務局の二極体制による効率的な道路整備・管理の成果を踏まえ、委譲により県負担の増加や整備・管理体制が後退することがないよう、個別路線・区間ごとに十分協議を行うことを要望する。

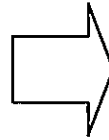
5. 道路構造について

道路構造については、個別道路の利用状況や将来構想等を踏まえ、ローカルルール化が進められているが、国庫補助事業により整備計画を立案している地方道についても、地方の事情に応じた地方の自由裁量を充分に尊重していただきたい。

○現状

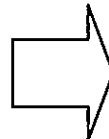
■地域間の連携・交流の強化

- ・那覇都市圏を中心に著しい交通渋滞が発生
- ・CO2の排出は渋滞の激しい那覇都市圏に集中
- ・輸送手段の大半を自動車に依存
- ・道路のアンバランスな使われ方
- ・米軍基地による地域分断
- ・那覇空港と高規格道路が未連結
- ・離島地域の不利・不便な生活環境



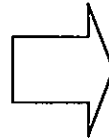
■観光への支援と沖縄らしい景観の保全・創出

- ・500万人を突破した観光客数
- ・急増するレンタカーへの対応
- ・雑草の繁茂等による道路環境の悪化
- ・拠点や観光地までのアクセス性の向上



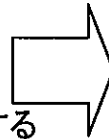
■安全・安心な暮らしの創出

- ・6割以上の橋梁で耐震補強が未対策
- ・台風による停電等の被害が多発
- ・交通事故の増加



■魅力あるまちづくりと基地跡地の有効活用

- ・地域振興の障害となっている米軍基地
- ・スプロール化した住宅地の不便な道路環境
- ・国・県道と比べ整備が遅れている市町村道
- ・日常生活の中心となる都市までアクセスに時間を要する地域が存在
- ・市町村合併の支援



○課題

- ①拠点までのアクセス性・連結性の向上
- ②交通円滑化
- ③公共交通等の利便性向上支援
- ④県土の均衡ある発展のための離島支援

- ⑤地域特性を活かした国際的な観光・リゾート地の形成支援
(観光地へのアクセス道路の整備・緑化等)
- ⑥観光・リゾート地へのアクセス性向上支援

- ⑦防災・震災対策(電線類の地中化等)
- ⑧交通事故対策

- ⑨都市空間の整備
- ⑩基地跡地利用による都市の再構築
- ⑪地域活性化支援

今後の道路整備についての沖縄からの提案

①地域間の連携・交流の強化

- 「ハシゴ道路ネットワーク」の構築
 - ・道路のアンバランスな使われ方の解消
 - ・那覇空港を高規格道路と連結
 - ・那覇都市圏の渋滞発生を抑制

②観光への支援と沖縄らしい景観の保全・創出

- 観光地へのアクセス及び周辺道路の整備
- 観光拠点への案内板の整備

③安心安全な暮らしの創出

- 電線類の地中化事業の推進
- 通行規制区間の解消
- 塩害による橋梁の劣化対策、耐震補強の推進
- 事故危険箇所対策、歩道設置による交通安全対策の推進

④魅力あるまちづくりと基地跡地の有効活用

- 地域づくりが完了するまで道路事業の継続が必要
 - ・基地跡地と周辺市街地の一体的整備

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式④

沖縄県

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
①地域間の連携・交流の強化	・那覇空港自動車道 ・沖縄西海岸道路 ・沖縄都市モノレール ・伊良部架橋	・沖縄県最大の広域交流拠点である那覇空港と沖縄自動車道を結び、沖縄県の経済活性化、観光の振興、高速性・定時性の確保を図る。 ・1km当たり渋滞損失時間が全国ワースト6位である本県において、最も交通量が多く、渋滞の著しい現国道58号のバイパスとして整備し、渋滞緩和を図る。 ・平成15年の開業以来、利用者が順調に推移している既存区間に加え、沖縄自動車道までの区間を延長することにより、公共交通基幹軸の形成を図る。 ・伊良部島の生活環境や医療・教育環境の改善など宮古圏域の地域振興を図る。	
②観光への支援と沖縄らしい景観の保全・創出	・景観向上のための無電柱化	・首里城周辺など、観光地周辺での無電柱化により景観向上を図り、魅力ある観光地の形成を支援する。	
③安全・安心な暮らしの創出	・交通事故の低減 ・台風による電柱倒壊への対応 ・那覇大橋などの橋梁の維持修繕対策	・誰でも安心して利用できる道路空間の確保を図る。 ・沖縄本島・離島地域において発生している電柱倒壊の被害に対応するため、電線類地中化や軒下配線などによる無電柱化を図る。 ・老朽化した橋梁の架け替えや補修、耐震対策を行い、緊急輸送道路ネットワークの確保を図る。	
④魅力あるまちづくりと基地跡地の有効活用	・普天間基地跡地利用 ・牧志・安里地区再開発	・今後返還が予定されている基地跡地において、骨格となる幹線道路などの都市基盤施設の整備を図る。 ・密集家屋を集約、改善し都市機能の向上を図る。	